

地域母子保健福祉情報紙 No.263

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的 (抜粋)
国及び地方自治体
関係諸団体と連携協力して
母子保健の重要性を啓発し
母性の健康を守り たかめ
心身ともに健全な児童の
出生と育成に寄与してまいります

支援にのりにくい人の背景を知る

福祉医療機構助成
ブロック別研修会から



研修最後のディスカッションでも活発な討議が (和歌山県)

さまざまな背景を考え、信頼関係を構築し支援していく方法について講演と実習を通して学ぶことを目的とし、開催各県から後援をいただき、下記にて実施した。

北海道・東北ブロック (山形県) 11月14日 (水)、関東・甲信越ブロック (群馬県) 11月28日 (水)、東海北陸近畿ブロック (和歌山県) 11月12日 (月)、中・四国ブロック (山口県) 12月4日 (火)、九州ブロック (佐賀県) 12月6日 (木)。

講演 I 「妊娠期から切れ目なく母子を支えるために～妊婦のおかれた社会的背景と関係性の築きを中心に～」

母子保健推進会議会長 佐藤拓代

講演 I では、一面的な面接ではわかりづらい妊婦の背景として、虐待 (面前DV含む)、予期せぬ妊娠、妊娠SOSを中心に、最近の現状と背景、いかに把握し継続支援につない

でいくか、またその重要性について、本会議佐藤拓代会長が講演した。

平成28年度の児童相談所と市町村の虐待相談対応件数を見ると、虐待の種類では、市町村、児童相談所ともに「心理的虐待」がもっとも多く、特に児童相談所では「面前暴力(面前DV)」が多い(2頁図)。児童相談所の対応件数を児の年齢別に見ると、心理的虐待は児の年齢が低いほど多く、0～3歳児では60.7% (面前暴力35.3%、面前暴力以外25.4%) であった。子ども虐待による死亡事例等の検証報告 (第1次から第14次報告) では、死亡した児の年齢では0歳がもっとも多く47.5%、その内訳では、0日が39.1%、虐待者では実母が55.5%であった。心中以外の0日死亡事例の実母の妊娠期の問題としては(14次報告)、「予期しない/計画していない妊娠」が81.8%であった。

妊娠中から公的サービスにのりにくい親はどのような背景があるのか。

- ・ 思いがけない (予期せぬ) 妊娠
⇒保健センターに行くのは子どもを産み育てようとしている人、迷っている間は行けない、と思っている人もいる。
- ・ 生活困難 (知的精神的・経済的理由等)
- ・ 親との関係性、人との関係性
- ・ DV (講演 II 参照)

本会議では平成30年度事業の一環として、福祉医療機構 (WAM) より助成を受け、妊娠期から子育て期まで切れ目なく支援する事業として、全国5ブロック共通のプログラムの研修会「妊娠期からの全数面接と子育て支援～支援にのりにくい人の背景を知る～」と、東京と大阪の2会場で「子育て世代支援者養成セミナー」を行った。本項では、5ブロックで行った研修の概要を報告する。

本研修会は、すべての妊婦、母親に母子保健サービスを提供すべく、一面的な面接では把握しづらい、妊娠期から子育て期の母親の

今月のページ

支援にのりにくい人の背景を知る 福祉医療機構助成ブロック別研修会から	1～4
社会一丸となって「早寝早起き朝ごはん」国民運動推進へ / 「女性の健康週間記念イベント」開催	5
紙上セミナー：8020の里づくり「食を通して人を育む」	6～7
平成30年度「健やか親子21推進協議会総会」開かれる / 編集帖	8